

本時のねらい（全5時間中の第3時）

学校トラブルの事例を基に、関わっている人が納得できる解決策やその決定方法について、対立と合意、効率と公正といった視点に着目して考察・表現させる。

ICT活用のポイント

- ・「効率と公正」といった概念を理解させるための**学習支援ソフトの動画教材を家庭で事前に視聴させる**ことで、本時の課題解決の素地となる知識を習得する。そして従来は、授業の中で確認していたことを家庭で学習しておくことができる。
- ・**デジタル教科書の「効率と公正」動画を視聴する**ことで、本時の基本的な用語を短時間で確認することができる。
- ・Googleスライドを活用することで、話し合いの場面で個人の意見を交流し、自分の考えを深めたり広げたりすることができる。

【前時の終末・家庭学習】

家庭で**学習支援ソフトの動画教材**を視聴することで、前時の復習とともに、本時の学習に生かすための知識を習得する。

【本時】

本時のめあてを設定し、**本時の追究活動に必要な基本的な用語を確認**する。

個人の考えを基に、グループで交流し、全体で共有する。

本時のめあてを達成するための課題を、グループで追究し、全体で共有する。

他のトラブル事例に取り組み、知識の定着を図り、本時の学習をまとめる。

事例の概要

【ポイント】



学習支援ソフトの動画教材を授業の予習や復習として活用することで、考えをグループや全体で交流する時間を増やしたり、学習を深めるための課題に取り組みせたりできる。生徒が**学習支援ソフトの動画教材を活用するよさを実感**し、予習や復習をすることの必要感をもたせることができる。

○家庭で**学習支援ソフトの動画教材**を活用し、前時までの既習事項の確認する。本時の追究活動に活用する基本的な用語を理解する。【活用場面①】

○**デジタル教科の動画**を視聴することで本時の学習内容を再確認する。【活用場面②】

対立状況を解消するための、必要な視点を確認する。
 効率...資源、時間が無駄になっていないか。
 公正...手続きが公正か、結果が公正か。

<本時のめあて>

学校トラブル事例の解決策を「**効率・公正**」の視点を基に考えよう。

○事前に、家庭から提出した**Googleスライドのワークシート**を基に個人の意見を共有する。【活用場面③】

【社会科・中3・「現代社会の見方・考え方」】②

【事例におけるICT活用場面①】～家庭学習～

(予習)

ポイント 効率と公正

公正：公平で偏りのないこと

↓

結果の公正さ	一部の人に負担や利益が偏り、異なる立場でも受け入れられるか
機会の公正さ	他の人が何かを得る機会を不当に制限していないか など
手続きの公正さ	結論を出すときに全員が決定に参加したか など

スライドアプリ

公正とは、どのようなことを意味しているのかな。

(復習)

前時に学習した対立と合意を確認することができたぞ。

解決することで得られる効果とかける費用・時間などのバランスを何というか。

合意

対立

公正

この議題を確認する

確認する

家庭学習として「効率と公正」に関する動画（学習支援ソフトの動画教材）を視聴させたことで、教科書の「学校トラブル（体育館の割り振り）」を「効率と公正」の視点を踏まえて、事前に割り振りを行うことができた。自分なりの考えをもって授業に参加できた。

【事例におけるICT活用場面②】 デジタル教科書の活用

【事例におけるICT活用場面③】 ～友達との意見交流～

効率と公正の考え方を、よく理解することができた。本時はその事について深く、考えるのだな。



いろいろな考え方があるんだな。しっかり自分の考えを伝えるぞ。

あなたなら体育館の割り振りをどのようにしますか考えよう

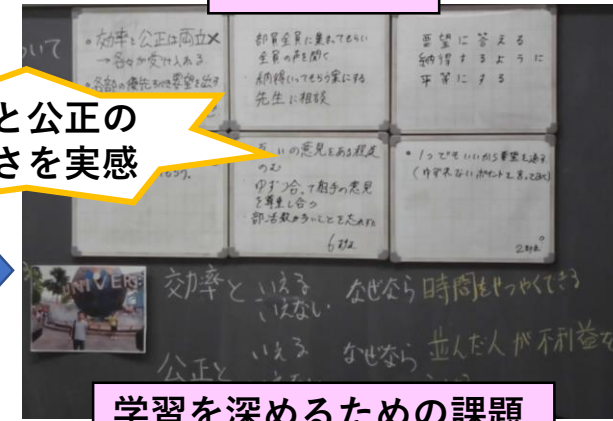
月(半面)	火(半面)	水(全面)	木(半面)	金(全面)
バレーボール	バレーボール	バスケットボール	バレーボール	バスケットボール
バドミントン	バドミントン		バドミントン	バドミントン

水

バド(半面)	バスケット【2時間】	木	金
バレー(半面)		バド(半面)	バレー【2時間】
バレー(半面)		バスケット(半面)	

効率と公正の大切さを実感

話し合い活動



学習を深めるための課題

本時の「効率と公正」に関するデジタル教科書の説明動画を視聴することで、本時の学習内容を再確認することができ、理解を深めることができた。また、本時のねらいに迫るために、「効率と公正」の視点を大切にすることへの意識付けを行うことができた。

個人追究の課題を、家庭学習としてGoogleスライドに打ち込ませて、事前に提出させることで、教師が生徒の意見を事前に把握して授業を行うことができた。また、時間をかけて話し合い活動を行うことで、共有するだけでなく意見を深めることができていた。

学習支援ソフトの動画教材で事前の説明や、個別で追究する場面を省略できたため、話し合い活動の時間を十分にとれた。また、学習を深めるための課題にも取り組むことで、教師がねらい考えさせたい、生徒が1時間考え続けることができる、授業になった。